Smile 通信

令和6年1月　編集・発行／埼玉県住まいづくり協議会

埼玉県住まいづくり協議会
〒330-0853 さいたま市大宮区錦町630 埼玉県住宅供給公社 住まい相談プラザ内
TEL 048-830-0033　ホームページアドレス https://www.sahn.jp/

富田家住宅

contents

埼玉県知事 新年あいさつ ……2頁
協議会会長 新年あいさつ ……3頁
シリーズ埼玉のすまい「武甲山をみつめながら」……4～5頁
第10回埼玉県環境住宅賞表彰式 ……6～7頁
埼玉県省エネ住宅フェア ……8頁
令和5年度住生活月間シンポジウム ……8頁

vol 92

埼玉県知事
大野 元裕

明けましておめでとうございます。

本年は、経済の正常化にとどめることなく、人口減少・超少子高齢社会の到来と、激甚化・頻発化する災害、危機への対応という、埼玉県が直面する二つの歴史的な課題に敢然と立ち向かい、持続的な発展を確かなものとする年にしなければなりません。

これらの歴史的課題に立ち向かうためには、10年後、20年後を見据えた未来志向の施策展開が必要です。

まず、一つ目の人口減少・超少子高齢社会への対応として、社会全体の生産性を向上させることで持続的成長を成し遂げるため、DXを更に推進し新たな価値やサービスを創出するほか、業務プロセスを変革させ不断の行財政改革を推進してまいります。

また、職住が近接した環境の整備とともに、地域での高齢者や子供たちの見守りを可能にする「埼玉版スーパー・シティプロジェクト」を強力に推進し、できるだけ早期に全市町村に御参加いただくことを目指します。

二つ目の様々な危機への対応として、関係機関の連携に主眼を置き様々なシナリオ作成や図上訓練を繰り返す「埼玉版FEMA」をより一層充実させ、県民の安心安全を確かなものとしてまいります。

他方で、エネルギー・物価高騰対策については、引き続き支援の手を緩めることなく取り組みつつ、経済と環境の両立による持続的な発展のため、サーキュラーエコノミーとネイチャーポジティブの推進を更に強化してまいります。

さらには、子供への医療費助成など、社会の宝である子供への支援強化とともに、あらゆる人が活躍できる社会づくりを進めてまいります。

さて、映画「翔んで埼玉」の続編の公開に続き、今年も、渋沢栄一翁がデザインされた新一万円札が発行される予定であるなど、本県に注目が集まる今こそ、県内外に埼玉の魅力を発信するチャンスです。

今年の干支「辰（たつ）」のように、埼玉県にとって大きな成長の年となるよう、皆様と共に「ワンチーム埼玉」で県政に取り組んでまいります。

埼玉県住まいづくり協議会 会長
宇佐見 佳之

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、経済や社会活動の正常化、生成AIの進化など、私たちを取り巻く環境が大きく変わりました。このような環境の中、皆様には協議会活動に対し、ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。お陰様で滞りなく協議会活動を進めることが出来ました。

本年、埼玉県に於きましては、加速する少子高齢化、空き家問題、自然災害等、住まいに関する重要な課題があります。同時に建設業や運送業における2024年問題も迫っており、働く環境が大きく変わる年となるでしょう。

こうした変化に対応するため、建設DXや技術革新、社会のニーズに柔軟にアプローチし、快適で豊かな暮らしを実現するためのアイデアや取り組みをより積極的に行なっていきます。また、これらの活動を広く県民の皆様に知っていただくための活動も精力的に行う所存です。

官民協力のもと、直面する課題に真摯に向き合い、埼玉県が進める「埼玉版スーパー・シティプロジェクト」、「埼玉版FEMA」に協力し、埼玉県住生活基本法に基づき、「日本一暮らしやすい埼玉」の実現を目指します。そして、これらの活動が会員の皆様の発展につながるよう努めて行きますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

結びになりますが、皆様にとって良き年となりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

シリーズ埼玉のすまい――49回

武甲山をみつめながら
～横瀬町～

299号の飯能をぬけ、芦ヶ久保をとおり横瀬へ。町の象徴武甲山を背にセメント精製のタンクが眼に入ってくる。横瀬駅近く。

①富田家住宅

②島田家住宅

③島田辰男家住宅

富田家住宅(表紙)

門構え、木塀で囲まれた庭に入る。正面に木造二階建ての主屋。昭和22(1947)年頃の築という。一階は応接室を西に全部で6部屋。それに二階が3室。脇には以前は茶室だったという離れ。主屋の背後、広い裏庭には池が設けられ、その池を廻り庭園が広がる。裏にはもと明治初期の味噌蔵を曳家し改装した二階建①。こちらの一階はお茶の教室に。豪壮な梁が天井を廻る二階の書斎。その広くとられた窓からは翡翠が飛んでくるという裏の森が覗ける。主屋に戻り、正面門越しに武甲山を遠望。門の左手には同じく曳家した山に十の家紋の蔵が2棟。この家紋からとった名称「やまとーあーとみゅーじあむ」は棟方志功などの美術品の収蔵で知られるお母さま、富田志げさんが館長を務める美術館。鉢形城の落人だったという現在14代目富田町長宅である。

少し戻り、秋には果物の収穫で賑わう小松沢レジャー農園付近。

島田家住宅②

当家は寛永元年(1624)に建築されたと伝えられ、町指定の文化財である。

入母屋造の木造二階建。白い幣の下がる玄関から中に入り、見上げると黒ずんだ太い梁が縦横にめぐらされ歴史を感じさせる。奥へとつながる畳敷きに鉋目の残る黒光りのする栗の木の2本の柱の向こうは一段高く、当家が代々名主として執務した18畳の空間が広がる。神棚を北側に、赤みの帯びた帯戸の奥には床の間付きの奥座敷が控える。そこには重要な客が東側に設えられた門を通り踏み石をわたり迎えられたという。入り口には非常時に貴重な書類が保管されたという堅固な石積みの深い室が地下に。茅葺屋根を一部くりぬいたような大屋根の形状は採光のため改修時に施されたという。主屋の外、同時期に建てられたという味噌蔵、それに蔵、納屋が西に。見上げる武甲山、ここからさほど遠くないそのふもとには根古屋城があった。当住宅は北条氏邦の家臣だった歴史を直に携える貴重な歴史的建造物である。

島田辰男家住宅③

木塀で囲まれた敷地内。白壁の蔵と黒い越屋根の出し梁の堅固な二階建の建物が前後に並ぶ。地元の大工の手による明治30年代の築という。当主は現在13代目。この二棟、一、二階とも以前は渡り廊下で繋がっていたという。敷地内にはほかに、西に蔵が2棟。主屋、玄関内に入ると太い大黒柱の周囲を縦繁の障子で囲んだ見事な空間。玄関から東、一段高い和室はがっしりとした梁が組まれ、北側に神棚付きの12畳、他に3室。部屋の周囲を東、南に廊下がめぐる。主屋の西はもと牛小屋だったという居住スペース。

④島田辰男家住宅 玄関内

⑥旧町田家住宅 階段

⑧浅見卓男家住宅 床の間

⑤旧町田家住宅 玄関

⑦島田醤油店

⑨坂善 門

旧町田家住宅（古民家再生協会事務所）⑤

石垣で組まれた敷地は少し高く広やか。木造二階建に越屋根はない。こちらはもと機屋。敷地内には以前大きな工場があったという。昭和3（1928）年築。地元の大工の手によるという。客用の南面する玄関、モダンな装飾の欄間脇下には戸袋が、同じく東側にも。足を踏み入れると商談用の3畳の部屋。その奥に和室が板の間と併せ6部屋連なる。南、西に欅の廊下が廻り北西隅のトイレに通じる。店奥7.5畳の和室に設えられた豪勢な階段は、広い和室6部屋、南と西に廊下を従え連なる二階へ導く⑥。各部屋を仕切る重厚な建具、欄間、床の間はその二階から正面に位置する武甲山の威容を眺める絶好の位置。現在こちらは浦島則之氏を代表とする古民家再生協会事務所として、古民家の改修・活用、移住相談などの窓口に。

町役場を過ぎ、299号の坂氷の交差点を右折し、11号の小川方面へ向かう。

島田醤油店⑦

明治初期創業の島田醤油店。店、それに連なる建物は昭和28（1953）年頃の築という。もとあった質屋を継いで明治初期に島田家が醤油店を開業したとのこと。今も残る2つの蔵はその当時のもの。創業して当代で10代目。蕎麦に重要なつゆ、そのつながりから11代目のご子息が開業した蕎麦店は評判という。

さらに北に進む。絹で繁栄した旧大宮郷、秩父市山田地区に接した横瀬。

浅見卓男家住宅

こちらは4代の歴史をもつ元機屋。明治45（1912）年築。近くの山田、荒木大工によるという。一階は部屋の周りに廊下を回し、5部屋。建具の美しい奥の床の間⑧の北側は板郎下を挟み内蔵に接続。二階は4部屋、その一部は一階の神棚の上部で板戸で囲われて1室に。西に接続されている木造二階の洋館は山田の近藤医院から移築されたもの。裏庭には氏神の社と大きな樅の木の大木が背後に。屋敷内にはほかに工場、5,60人はいたという従業員用の宿舎も。

この辺り、以前は機屋通りとも呼ばれ多くの機屋がならんでいた。残された建物のひとつ、11号沿いの**坂善**の壮麗な門は確としてその歴史を伝えている⑨。

伊豆井 秀一（元埼玉県立近代美術館主席学芸主幹）

第10回 埼玉県環境住宅賞

受賞者と審査委員と協議会会長

埼玉県住まいづくり協議会では、去る12月22日さいたま市浦和区の埼玉県県民健康センターで「第10回埼玉県環境住宅賞表彰式」を開催しました。

今回は、建築部門・アイディア部門・学生部門合わせて34作品の応募がありました。

その中から埼玉県知事賞に建築部門の「すばこ～女性と犬の終の棲家」(河原泰　株式会社河原泰建築研究室)が選ばれました。優秀賞には建築部門の「brachium」(長澤徹　ポーラスターデザイン一級建築士事務所)、アイディア部門の「『地球に還る家で地域おこし』～埼玉県の気候風土を活かしたLCCM住宅～」(永島利倫　近藤建設株式会社)、学生部門の「“ハナレ”の家」(浦上龍兵)の3作品が選ばれ、審査委員長特別賞1作品、協議会会長特別賞1作品、入選4作品、奨励賞8作品が選ばれました。

表彰式に先立ち、埼玉県住まいづくり協議会の宇佐見会長の挨拶及び来賓と審査委員の紹介がありました。表彰式では、埼玉県知事賞は若林埼玉県都市整備部副部長から、審査委員長特別賞は中村審査委員長から、その他の賞は宇佐見会長から表彰されました。中村審査委員長による総評の後に、埼玉県知事賞と優秀賞の受賞者によるプレゼンテーションが行われ、審査委員から講評がありました。

総評

中村 勉 審査委員長

本年の環境住宅賞への応募は例年より少なかったが、作品の中身はどれも非常に濃く、次第にパッシブ環境手法に慣れてきたという傾向が読み取れた。

特に、審査委員の一人は、恒常風のデータや通風などの空気の流れを設計者の感覚で適当に書くのではなく、ソフトを使ってシミュレーションしている作品が多いと喜んでいた。ソフトに頼ることを奨励するものではないが、定量的な分析によって現象を理解し、それを具体的な設計に結び付けていくことは、方法論の一つの進歩とも感じられた。

パッシブ手法とは機械に頼るのではなく、その土地に立ってみて頭の上の空や太陽、空気を感じ、四季を考えてみる。さらに周辺の街並みや、緑地を見て、四季に思いを馳せ、ここに潜む暖かさや涼しさを知り、それをどのように住まいの快適さや省エネに利用できるかを考えることができるようになる。そうすると、機械仕掛けの快適さより、自然の光や、少しの空気の流れがどれほど快適さを創り出しているかを肌感覚で感じられるようになる。これは設計の醍醐味だ。地面の暖かさも普通ではわからないが、太陽の熱が地表面に蓄熱され地中熱を利用することも可能だ。

また、換気についても部屋から外気に捨てていた排気の温度を新鮮空気に熱交換ができないかを考えるのも大事だ。しかも機械を使わずに。そうしていくと、一つ一つの設計の中に、自らが感じ、考えた方法で良い環境を生み出していくという設計の喜びも感じることだろう。

必ずしもソフトを駆使する必要はないが、それを使いこなしていくと、そこに示されている数値が環境性能の意味ある数値となってくる。そういう体験をしてほしいと思わせる今回の審査だった。

埼玉県知事賞
（建築部門）

すばこ～女性と犬の終の棲家

河原 泰　株式会社河原泰建築研究室

優秀賞
（建築部門）

brachium

長澤 徹
ポーラスターデザイン一級建築事務所

優秀賞
（アイディア部門）

地球に還る家で地域おこし
～埼玉県の気候風土を活かしたLCCM住宅～

永島 利倫
近藤建設株式会社

優秀賞
（学生部門）

"ハナレ"の家

浦上 龍兵
ものつくり大学大学院

- ●審査委員長特別賞（アイディア部門）「目が不自由」だからこそ楽しい自然あふれる家 粟屋 采代 株式会社AQGroup
- ●協議会会長特別賞（学生部門）故事来歴 光と風の住まい 山下 永遠 埼玉県立熊谷工業高等学校
- ●入選（建築部門）見沼の家 藤岡 正洋 こなから建築工房株式会社
- ●入選（建築部門）～風をあつめる家～ 株式会社小林建設
- ●入選（建築部門）空気が廻る家 荻原 佳明
- ●入選（学生部門）光の降り注ぐ家～両親の未来を創る～ 角張 侑士 埼玉県立春日部工業高等学校
- ●奨励賞（建築部門）木の素材を活かして「和」を極める ～創エネ・省エネ・パッシブハウス～ 風間 健 株式会社高砂建設
- ●奨励賞（建築部門）鳩ケ谷 里の住宅 増井 真也 有限会社すまいいリビングカンパニー
- ●奨励賞（建築部門）ひだまりの家 小玉 和彦 株式会社コダマホーム
- ●奨励賞（建築部門）両立する家 吉田 亜希子 近藤建設株式会社
- ●奨励賞（建築部門）陽の光をコントールする家 株式会社小林建設
- ●奨励賞（アイディア部門）ニュータウン再生 發智 良幸 近藤建設株式会社
- ●奨励賞（アイディア部門）UP CYCLE de RENOVATION アップサイクルでリノベーション 吉春 希望 近藤建設株式会社
- ●奨励賞（学生部門）cave 井藤 飛鳥 ものつくり大学

埼玉県省エネ住宅フェア

去る令和5年11月18日、多くの方に省エネや環境にやさしい暮らし方についてPRするため、さいたま新都心駅東西自由通路を会場とし、埼玉県省エネ住宅フェアを埼玉県住まいづくり協議会と埼玉県の共催で開催しました。

開催当日は天候にも恵まれ、また、さいたまスーパーアリーナで子育てフェスタが開催されていたことから、多くの家族連れの方々にご参加いただくことができました。

チェックシートでは、9割を超える方が、家庭内で省エネに対しての取組を行っているとの結果となりました。

	チェック内容	回答数
1	暖房は20度、冷房は28度の設定を心がけている	182
2	空調フィルターは定期的に掃除している	171
3	冷蔵庫に詰め込みすぎないよう心掛けている	173
4	使っていない部屋の照明は消している	232
5	照明はLEDを多く使用している	190
6	窓に断熱性の高いガラス・サッシ、または、内窓を使っている	117
7	断熱性の高い玄関ドアを使用している	88
8	家全体に、隙間なく断熱材を施工されている	91
9	屋根に高反射熱の塗料が塗られている	37
10	太陽光発電パネルが設置してある	32

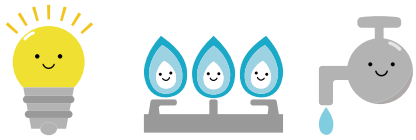
概要

日　時：令和5年11月18日(土)　10:00～16:30

開　場：さいたま新都心駅東西自由通路

内　容：①PRブース(10団体)(住宅の省エネ製品の紹介、暮らし方の提案等)
(㈱AQ Group・近藤建設㈱・㈱太陽商工・㈱高砂建設・東京ガス㈱・
東京電力エナジーパートナー㈱・㈱LIXIL・YKK AP㈱・
埼玉県地球温暖化防止活動推進センター・埼玉県住まいづくり協議会)
②ゆるキャラ ・コバトン(埼玉県)駅側のブース端部で希望者との写真撮影。
③チェックシートの提出者のカトラリーセットプレゼント
④チェックシートの提出者に抽選会を実施

来場者：来場者数：約500名　チェックシート：回答数251



令和5年度住生活月間シンポジウム開催

去る令和5年10月20日、令和5年度住生活月間シンポジウムが開催され、「ホンマでっか!?TV」等にも出演されている門倉貴史による講演や、住宅業界における様々なDXを紹介しました。当日は久々のリアル開催もあり多くの方々でにぎわいました。

国土交通省では、国民の住意識の向上とゆとりある住生活の実現に資することを目的として、毎年10月を「住生活月間」と定め、普及啓発活動を実施しています。県内でも期間中に自治体や住宅関連団体が主体となり、住まいや暮らしに役立つイベントを展開しています。埼玉県住まいづくり協議会では住生活への関心を高めようと10月20日にさいたま市大宮区の武蔵野銀行本店エムズスクエアで、4年ぶりとなる「令和5年度住生活月間シンポジウム」をリアル開催しました。

当シンポジウムには、協議会員をはじめ一般県民や自治体関係者、民間企業の担当者など、107名が参加しました。参加者からは、4年ぶりのリアル開催を歓迎する声をはじめ、落ち着きのある空間で非常によかったと会場となった同施設を好評する意見が多く寄せられました。また、同会場では10月16日から10月20日までの期間中、豊かな住生活に資する取組のパネル展示や動画放映も実施し、施設を利用する多くの方へPRを実施しました。

シンポジウムの冒頭、宇佐見会長は「コロナ禍で、われわれの役割を考えさせられた。価値観や文化が大きく変化していく中で、今日を皆様の豊かな住まいづくりの契機にしてほしい」とあいさつをされました。第1部ではBRICs経済研究所代表の門倉貴史氏による「これからの日本経済と資産形成～人生100年時代の生き方・暮らし方～」の講演が行われました。第2部では営業支援システムをはじめとした住宅業界のDXセミナーや交流会、相談会を実施しました。セミナーでは各社からDXの重要性や具体的な取り組み事例について学ぶことができる貴重な機会となりました。また参加者からは今後もこのようなセミナーを定期的に開催してほしいという声が多く寄せられ、参加者の今後のDX推進の意欲が高まったことが確認されました。

■第2部参加企業様

企業名	サービス名
FREEDOM X 株式会社	「ランディPRO」
株式会社 頼人	「スマートモデルハウス」
株式会社 log build	「Log Walk/ Log Meet」
株式会社 エー・エス・ディ	「目視録」
東京ガスネットワーク 株式会社	「eガスノート」

■当日の様子

宇佐見会長からの挨拶

DXセミナー(第2部)の様子

交流会・相談会(第2部)の様子